

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こばんはうすくら 広島府中教室

保護者等数(配布数) 22 回収数 15 割合 68%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	15件					
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	13件			2件	・送迎時にお会いするくらいで職員の方と接する機会がないのでプロフィール表等があれば嬉しいです。	・名札の着用と、参観日等イベントを通して保護者との交流を図っていきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14件			1件		・生活しやすいようにこれからも配慮していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	15件					
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	15件					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	11件			4件		・お子様に必要な項目を選択、目標を立案し計画書を作成しています。6ヶ月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しを行っています。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	13件			2件		・支援計画に沿った活動をこれからも進めていきます。
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	12件	2件		1件	・楽しい企画ありがとうございます。	・スタッフミーティングを通して、その日の利用児に合った支援を組み合わせる活動を立てています。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6件	1件	2件	6件		・地域の施設やお祭り、公園などに行く機会を設けています。
保護者 への 説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15件					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	15件					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	6件	3件	2件	4件		・ペアレント・トレーニングは保護者からの希望があれば検討していきます。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	15件					
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11件	2件		2件		・HUG等で連携を取りやすい環境を作っていくように努めます。
15	保護者同士の連携が支援されているか	6件	2件	4件	3件	・お祭りにしかまだ参加していませんが話す機会は持てませんでした。	・イベントなどを通して交流できる場を設けていきます。	

	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	1件		2件	・相談の申し入れをしたことがないのでわかりません。	・年2回のモニタリングを兼ねて面談を行っています。他にも随時面談希望がありましたら日程調整していきますのでお気軽にご相談ください。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14件	1件		・HUGのアプリが役立っています。	・より良い情報伝達の方法を取り入れていくように努めます。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	12件	1件	2件	・行ったことがない所に連れて行ってもらえる為、新しい公園などを知る切っ掛けになって嬉しい。 ・見たことがないのでわかりません。 ・早い情報発信助かっています。	・HUGで活動記録(行事予定)、サービス提供記録など発信しています。自己評価については、集計が終わり次第HUGでお知らせしますのでご確認をお願いします。
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	14件		1件		・個人情報の取扱いには十分注意し、事業所内の鍵付き棚で厳重に保管しています。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	8件	2件	5件	・説明はしていただきました。訓練はわかりません。	・今後対応していきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4件	1件	1件	9件	
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	13件	1件	1件	・スケジュール帳に記入してあるので、行く日を指折りに数えて楽しみにしています。 ・笑顔で帰ってくるのが嬉しいです。 ・いつも行くことを楽しみにしています。たくさんの経験をさせてもらえて有難いです。 ・いつも楽しく過ごせている様で帰宅して子供から「こぼんに行きたい」と言っています。ご迷惑おかけしていると思いますが楽しく行けて有難いです。 ・母と離れるときには泣くが、活動は楽しんでいると思います。 ・とても楽しんでいます。	・子供たちが楽しく通えるように今まで以上に努めてまいります。
	23	事業所の支援に満足しているか	15件			・いろんな場所、人と触れ合うことに少し慣れてきて、自分からお友達や大人の人(友達のお父さんお母さん)に話しかけるようになってきた。 ・いつもありがとうございます。とても助かっています。 ・子供を放っておかず関わる療育をしていただき、ありがとうございます。 ・日曜日も利用でき、とても満足しています。	・今後も引き続き、満足いただけるようにスタッフ一同尽力致します。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 広島府中教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		基準面積を上回っており、利用児童用のロッカーの配置で部屋分けを行っている。	
	2 職員の配置数は適切であるか		○		指定基準は満たしているが、利用児童の急激な増加に合わせて十分な加配スタッフの配置ができるように努めていく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○		トイレ入口前に段差があるので、それぞれの利用児童に合わせた合理的配慮を行っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日頃から衛生管理を徹底し、清潔で心地よく過ごせる環境を整えている。	生活空間の中で、個々の特性に合わせた環境を設けるべきかを検討していく。
5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	療育開始前や終了後にカンファレンスを行い振り返りを行っている。	振り返りをした改善を適切に周知できるようにしていく。	
6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		開設後初めての自己評価になる為、今後保護者の意向などを教室運営に活かしていく。	

業務改善	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		集計が終わり次第、ホームページへの公開及びHUGで保護者へ周知する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者による外部評価は行っていない。今後行うかを検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○	リタリコ等で研修機会を作っている。	十分な研修機会を確保できる位とは言いがたい。来年度研修計画を立てていくように努める。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	契約時にアセスメントを行い、利用児童の状況など把握している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○	定期的に現場の意見を聞きながらアセスメントツールの見直しを行っている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○	ガイドラインの主旨にのっとり、具体的な支援内容を設定している。	家族支援や地域支援をどのように取り入れていくかを検討していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○	HUGを活用しながら個別支援計画をいつでも事業用携帯で見られるようにし、個別支援計画に沿った支援を行えるようにしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	スタッフミーティングで話し合い、共通目標を持って取り組むようにしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	課題や活動の目的や子供の様子に合わせて、職員の役割や補助、サポートの仕方を話し合っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○	保護者や本人のニーズ、一人一人の発達に応じ、集団適応、社会性の視点をもちながら個別支援計画の作成を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	朝礼を行い、出勤の職員全員で打合せをしている。	活動前に適宜活動内容や役割の確認を行い、支援の質を高めていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	支援業務終了後、その日出勤の職員全員で振り返りを行っている。	共有に十分な時間が取れていない場合は、業務日報の記録や翌日の朝礼、空いた時間で共有していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	業務日報を毎日欠かさず記録し、反省会を行っている。	わかりやすいように書き方を統一していく。
関係	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	6ヶ月に1回以上モニタリングを行うようにしている。	保護者との面談を通して利用児童の現在の状況などを確認していく。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児発管と現場職員2名で参加するようにしている。	出来るだけ会議に出席できるように調整している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		現在ケースがない為、今後必要に応じて体制などについて検討していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		現在ケースがない為、今後必要に応じて体制などについて検討していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		現在ケースがない為、今後必要に応じて体制などについて検討していく。

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	保育園などの送迎時に担任や園長先生等と情報共有と相互理解を図っている。	よりよい連携方法などを検討していく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		現在ケースがない為、今後必要に応じて体制などについて検討していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修機会があれば参加を検討していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		戸外遊びや公園への道中での地域の方とやり取りをする機会はあるが、保育所などとの交流などは今後必要か検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		現在参加できていない為会議の場があれば日程調整していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時やHUGなどで日々の様子等を情報共有している。	より良い情報共有の方法がないか検討していく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者からの希望があれば検討していく。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に説明しながら疑問点などないか確認している。	専門用語等を用いずわかりやすく説明を行うようにしていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	面談や送迎時等で支援内容の説明を行うようにしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時等で保護者の悩みや相談に応じると共に、保護者から申し出があった場合、日程調整をして面談等の時間を作り対応している。	
	35	保護者同士の連携を支援している	○		現在は行っていないので保護者の希望があれば検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	保護者の申し入れがあれば日程調整し、迅速に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報は発行していない。活動の概要や行事予定等はHUGで発信している。より良い発信の方法を検討していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○	鍵付きの書庫で保管するなど十分に注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	それぞれの特性に合わせた情報伝達の方法を取っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		現在利用児向けの行事のみの為、今後行うかは検討していく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		現在作成している途中。完成次第HUG等を用いながら周知していく。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		今年度まだ行っていない訓練がある為、実施し、HUG等で保護者に周知していく。	

非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アセスメント時に確認するようにしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメント時に食物アレルギーに関しては聞き取りを行っている。アレルギーがある児童は別紙でわかるようにしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ヒヤリハットの記載方法、周知についてマニュアルを作成していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		適宜研修を行いながら職員の虐待防止への理解を深めるようにしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		現在、組織としてどのような場合に身体拘束が必要かを虐待防止委員会で話し合っている。